

## 「せんきょフォーラム」実施報告



区内の小学校6年生を対象とした「せんきょフォーラム」を1月に実施しました！

今年度は山内小学校、青葉区役所を見学に来た市ヶ尾小学校を対象に行いました。

山内小学校では「給食」に関する模擬投票も実施し、立会演説では候補者の熱い想いが語られ、生徒のみなさんも真剣に投票に臨んでいる姿が印象的でした。

今年度も協力して下さった推進員の方、本当にありがとうございました！

## 青葉区の選挙マスコット「えら坊」日記



11月18日

横浜市・区明るい選挙推進大会に参加したよ。今年は「一票の大切さ…サザエさん一家は幸福みつけの達人ぞろい」というテーマの講演を聞くことができたよ！

11月22日

平塚市明るい選挙推進協議会のみなさんが青葉区役所に来てくれたんだ。平塚市の選挙啓発活動について知ることができたよ。意見交換もできて、嬉しかったな♪

## 「えら坊」のスウェーデン選挙紀行



昨年9月9日、高い投票率を誇るスウェーデンで4年に一度の総選挙が執行され、当事務局の職員が視察に行ってきました。その投票率は、驚愕の87.18%！今号から3回にわたり、えら坊がその秘密に迫ります。

えら坊の仮説①：選挙への参加のしやすさ

期日前投票を全国どこでもできる、本人、代理人、第三者の証人の証明があれば理由を問わず代理投票ができる、後悔投票（期日前投票をした後に当日投票で投票先を変更することが可能）ができる等、選挙に参加しやすい環境・制度があり、投票率が高い理由の一つと考えられます。

スウェーデンの選挙は比例代表制。政党名が記載された投票用紙（黄色が国、青色が県、白色が市の各選挙）を1枚選び、封筒に入れて投票します。

### 編集後記

今年度の「あおばイコット通信」の発行も、最後となりました。今年度も青葉区明るい選挙推進協議会の活動に、ご理解、ご協力いただきありがとうございました。来年度は4月7日に統一地方選挙、夏に参議院選挙と2つの選挙が控えております。事務局もより一層、選挙啓発活動に取り組んでまいります。みなさま、どうぞよろしくおねがいいたします。

あおばイコット通信  
平成31年2月号

<編集・発行>  
青葉区明るい選挙推進協議会

<事務局>  
青葉区総務課統計選挙係  
TEL:978-2205 FAX:978-2410

平成31年2月号 青葉区明るい選挙推進協議会の「今、をお届け！」

# あおばイコット通信 No.65



- ☆青葉区明るい選挙推進作文コンクール2018特集！
- ☆せんきょフォーラム実施報告
- ☆青葉区の選挙マスコット「えら坊」日記
- ☆【新連載】「えら坊」のスウェーデン選挙紀行

## 青葉区明るい選挙推進 作文コンクール2018特集！



11月30日、「青葉区明るい選挙推進作文コンクール2018」表彰式を実施しました。当コンクールは、区内の中学校に通う中学生を対象にしており、今年度は11校から227作品のご応募がありました。厳正な審査の結果、6名の中学生が入賞されました。どの作品も選挙に対する中学生の熱い思いのこもった作品ばかりです。詳しい表彰式の様子や、全入賞作品については、青葉区明るい選挙推進協議会のホームページに掲載されております。



入賞者のみんなを  
ほくもお祝いしたよ♪

### 【入賞者一覧】

賞	題名	学校名	学年	入賞者氏名
青葉区明るい選挙推進協議会 会長賞	十八歳の選挙権について	緑が丘中学校	1	平田 悠希子さん
青葉区選挙管理委員会 委員長賞	自信から行動力へ	山内中学校	3	工藤 彩智さん
青葉区長賞	未来に繋がる選挙	鴨志田中学校	3	興石 恵さん
えら坊賞	選挙への関心について	すすき野中学校	2	伊東 未来さん
	身近なものになった「選挙」	すすき野中学校	2	今井 栞音さん
	私たちの意志	谷本中学校	2	小川 陽花さん

上位3賞の作品について、本誌中面に掲載しています



## 青葉区明るい選挙推進協議会会長賞

### 十八歳の選挙権について

緑が丘中学校一年 平田 悠希子さん

二〇一六年六月十九日、選挙権が二十歳以上から十八歳以上に引き下げられ、十八歳から、市町村や知事、参議院などの代表を選出する投票ができるようになりました。

選挙権が引き下げられた目的は、高齢化社会が進む中で、若者の意見を政治により反映させて、活力のある社会を作ることです。しかし、選挙権が二歳引き下げられたからといって私たちが政治に興味をもたなければ、投票数も増えず、結果はそれほど変わらないと思います。

実際、平成二十九年十月に実施された衆議院議員総選挙での青葉区の十八・十九歳の投票率は横浜市で一番高かったのですが、半以下の四十八パーセントでした。これでは、せっかくの若者への投票権が十分にいかされたとはいえないと思います。

選挙の年齢についてインターネットで調べたところ、オーストリアでは国政選挙の二〇〇七年に選挙権を十六歳に引き下げました。選挙権年齢を下げたことで、十六歳の政治的判断力を危惧する声も強かったのですが、全ての学校で政治教育を必修科目にするなど生徒が学校で政治を学ぶ環境を整えることによって若者の政治への関心が高まり、初めての国政選挙では十六歳十八歳の投票率は七十七パーセントに達したといえます。若者の政治への関心をあげるには政治について興味を持ち、教えてくれる環境がとても大事だと思います。

若者が選挙に興味を持つためには、こうした環境だけではなく候補者が私たちの立場になって分かりやすく主張してくれることが必要だと思います。前回の衆議院議員総選挙の時、自分だったら誰に投票するのだろうかと考え、四名の候補者の演説をきいたり、家のそばにあるポスターを読んだりしました。最終的に誰に投票したらよいかを選んでみました。私にとって身近な課題についての話は少なく、それぞれの候補者が当選したらどのようなことが起こるのか、何がうれしいのか、日本がどのようなようになるのかについてあまりよく分かりませんでした。選挙カーで自分の名前を連呼したり、難しい話をするだけでなく、若者が考えて候補者を選ぶように、問題点や主張に関して分かりやすく説明してくれる人がたくさんでくるとよいと思います。

今回の作文を書くにあたって選挙についていろいろと考えることができました。私は、五月生まれなので、高校三年生の時にはじめて投票する可能性が高いです。その時は、まだ社会人としての経験はないと思いますが、世の中で起こるいろいろなことを学び、そして、自分の考えをもち棄権することなく、大事な一票を投じたいと思いました。

## 青葉区選挙管理委員会委員長賞

### 自信から行動力へ

山内中学校三年 工藤 彩智さん

「投票用紙に丸バツ以外の変な記号を書いたりするのはやめて下さい。」生徒会選挙の管理委員長が、全校に向けて言ったこの言葉。私は多くの疑問が浮かんだ。

なぜそんなことをするのだろうか。じゃあ自分の方ができる、と思っっているのかな。この疑問は、未だ私には解けていない。

私は学級委員を務めている。決めるとき、私にライバルはおらず、そのまま決定した。嬉しいはずなのに、なぜか不安が頭をよぎった。本当にみんな私でいいと思っっているのか。そして実はやりたかった子がいるのではないかと思っただ。でも、友達は、決まったあとに私に、「学級委員大変だと思っけど、応援してるよ。」と声をかけてくれたのだ。私はそれから前に出るタイプじゃない自分ができることを探し、もう一人の委員のサポートをしている。自信をもつことができたのだ。生徒会長を決めるときは、任される負担や責任の重さがちがう分、もつと不安だったと思う。たとえライバルがいなくても。そんな不安をやわらげるために、私たち投票者はきちんと一票を入れて、間接的にメールを送ることが必要だ。たとえ自分の一票でも、立候補者にとって、自信につながるのだ。会長は

今、私と同じクラスだ。みんなに「会長」と呼ばれ、すごく頼りにされている。それはきつと、私たちが会長にあげた「自信」が、やがて会長の「行動力」になり、学校を動かすことができていくからだと思う。

今現在、日本では、選挙権が十八歳に引き下げられ、投票する対象者も増えた。八十一パーセントも人が投票できるはずなのに、その内の五十パーセント前後の人しか投票していない。新しく選挙権もった十八歳、十九歳の投票率は青葉区で四十八パーセント。横浜市で一位だとしても、決して良い数字ではない。せっかく投票する権利をもらうことができたのに、すぐもつたいたいことだ。投票することで、日本の明日が変わるかもしれない。投票者が立候補者に自信をつけ、「行動力」にする。中学生の生徒会選挙と同じである。住みよい町にするために、投票せずにテレビの前で文句を言っているのではなく、まずは投票に行くことに意味があると思う。

選挙権が十八歳に引き下げられた。私はあと四年である。政府は私たち新世代に期待しているのだ。そして、高齢化が進んでいる現代で、将来、私たちは日本を支えることになる。その重みと責任、そして期待を背負い、身近なことから始めていくことが大切になっていく。小さな行動でも、集まって大きな「行動力」になれば、継続可能な社会を実現できるかもしれない。

## 青葉区長賞

### 未来に繋がる選挙

鴨志田中学校三年 興石 恵さん

「選挙の投票権年齢が二十歳から十八歳に引き下げられることが、平成二十七年六月に成立、公布されました。」

私はこのニュースを二年前に見てこの法律の改正に大賛成でした。なぜなら、未来を担う若者の声もつと政治に反映できると思っただからです。そして十八歳が参加できる初めての衆議院総選挙が、平成二十九年十月に行われました。しかし、その総務省のホームページの年代別投票率の結果を見て驚きました。それは、十代、二十代の投票率がとても低かったからです。なぜ低いのかをインターネットやニュースで調べてみると、理由の上位に「選挙にあまり関心がないから」や、「政治は難しいから」という意見がありました。若者の投票率が低いと、少子高齢化の進行と重なり、ますます若者の声が政治に届かなくなることが起こると考えた私は、投票率を上げるためにはどうしたら良いのかを考えました。それは二つあります。

まず一つ目は、幼少期から政治教育をすることです。選挙に行かなかった若者の理由としては、政治は「難しい」「あまり関心がない」ということが多かったので、選挙がいかに自分たちの未来に繋がるのかという課題を小学生からじっくり勉強すれば、政治や選挙が身近に感じられて大人になっても役に立つと考えたからです。

そして二つ目は、投票箱を設置する場所を変えることです。現在は、学校や公民館などに投票所を設けていることが一般的ですが、それを駅前やコンビニといった生活動線の中に設置すれば、通勤、通学のついでや、遊びに行く時のついでなどで投票することができ、選挙のことを忘れることなく投票できると思っただからです。

私は選挙についてあまり考えたことはありませんでしたが、こうして考えてみると選挙の投票とは、自分たちの未来にもつと影響するものなので、その大切な一票がどれだけ大事かを学ぶことができました。

今中学三年生の私もあと三年で選挙に行くことになりました。今の投票率のままだとせっかく法律が改定されて政治家たちが若者の声を聞こうと耳を傾けているのに、そのチャンスが無駄にするのはもつたいたいと思っます。あと残された三年を有効的に使い、「まだ先のことだ」と捉えないで、政治に関心を持ちそれについて考える、そして意見を持つことが大切なのではないでしょうか。興味が高まれば、自分の意見を政治に反映させたいと思う気持ちが増えて、結果的に投票率も上がるのではないかと思っます。

全入賞作品については、青葉区明るい選挙推進協議会のホームページをご覧ください。

